

台湾舞台車でのびびやかな「コンサート」

9月21日、改善センター駐車場で台湾舞台車Night Eventを開催しました。

台湾舞台車とは荷台が開いて舞台となるもので、祭りを盛り上げる「貸し舞台」。本ステージのプロデュースを務めるやなぎみわ氏（美術家・舞台演出家・第15回写真の町東川賞新人作家賞受賞者）が所有する舞台車「花鳥虹」は、写真家・沈昭良氏の協力のもと、2014（平成26）年に台湾で製造され日本に初上陸しました。日本で唯一の舞台車は巡礼劇「日輪の翼」やサーカス、シンポジウムなどさまざまなイベントを各地で行っています。やなぎみわ氏や沈氏とは、写真の町東川賞や高校生国際交流写



真フェスティバルでの縁がつながり、本イベントを開催することができました。舞台車では、これぞ北海道の秋の夜という寒さの中、それを感じさせないポールダンスの優雅な演技から始まり、アイヌ民族の伝統楽器を使用したOK&Rakpo、台湾原住民プユマ族の歌手・陳建年氏のコンサート、サーカスを行い、台湾舞台車のきらびやかさに酔いしれる夜となりました。あわせて昼の部や22日、翌月12日には沈昭良氏によるトークショーやギャラリートアーを開催。同時開催している写真展「還流・帰還」についての制作秘話などを聞くことができました。

きみのお金は誰のため 誰も教えてくれないお金の話

9月29日に改善センターで、書籍「きみのお金は誰のため」の著者である田内学さんを招き、教育講演会を開催しました。

当日は中学生から社会人までの113名が参加。経済を「お金」の出どころだけではなく、「働く人」に注目して捉えることで、今の日本で起きている年金

問題、物価と賃金、インフレと円安などについての本質的な問題を理解しました。私たちはお金という道具を介して、人と人が支え合って生きているということを再認識するとともに、みんなが豊かな生活を送る



新米まつりで、東川米を堪能

9月21・22日、せんとびゅあ芝生広場で東川新米まつりを開催しました。

当日は、新米の時期ならではの新米すくいどり大会や東川米重量当てゲーム、クイズ大会で東川米プレゼント企画のほか、米どん菓子ブース、町内特産品が当



▲新米すくいどり大会



▲東川米が当たりました!

たる大抽選会、東川米を堪能できるキッチンカーなど、東川米に関するさまざまな企画を行い、今年もたくさんの方々が東川米を楽しみました。

8月27日〜9月10日の新米先行予約期間には、今年初のびりか計2692件の予約と健康米3370袋・粒撰米5829袋の購入、ななつぼし計1486件の予約と健康米1322袋・粒撰米4251袋の購入がありました。たくさんのご予約ありがとうございました。今年も美味しい東川米を、ぜひ食べてください。

ためには、やりたいことを実現するためには、「お金よりも仲間が大切」であることを学びました。参加者からは、「始めはきれいごとと思いつながら聞いていましたが、最後は田内ワールドに引き込まれました。（町外・保護者）」

「お金に対する価値観が変わりました。自分の欲だけでなく、社会のためにお金を使っていこうという考えになりました。（町内・高校生）」「多様なものの見方をご教示いただきました。『経済』の考え方がわかりやすかったです。（町内・教職員）」などの感想があり、多くの方にとつて学びの多い講演会となりました。



▲公設塾 学び舎 ひがしかわ 問合せ